
鉱山研究会

ニューズレターNo. 87

2011年11月22日

- 1 ニューズレター号数の訂正とお詫び
- 2 前回研究会の報告
- 3 第31回鉱山の映像を観る会のご案内 丸山もとこ
- 4 神山英昭氏を偲ぶ 小野崎 敏
- 5 寄贈資料紹介 川俣修壽
- 6 事務局からのお知らせ

鉱山研究会 連絡先

会長 村串仁三郎

〒270-0127 流山市富士見台2-5-16-13-401

電話・ファックス 0471-52-8952

事務所 国学院大学、若木タワー第913号、菅井益郎研究室

〒150-0011 渋谷区東4-10-28

1 ニューズレター号数の訂正とお詫び

さきに発行しました、ニューズレターは、No. 87とありましたが、No. 86の誤記でした。関係各位に大変ご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ありませんでした。ここで深くお詫びいたします。村串拝。

2 前回研究会の報告

10月22日、法政大学で例会が開かれました。第1報告者は、中澤秀

雄会員で「（旧）産炭地研究会について」です。

旧産炭地では、鉱山会社の解散・廃業にもない原資料が散逸、廃棄されつつあり資料の収集整理は急を要する。資料の整理、公開を通して地域再生にかかわりたい。産炭地研究会（J A F C O F）は、炭鉱遺産を通じた地域再生に関する調査研究、歴史的経路に関する国際（ウェールズ）・国内比較、生活史の発掘と集合的記憶の伝承などを目的としている。

既に、報告書「炭鉱労働の実際－住友赤平鉱の場合」が発行されている。また、国勢調査データを使ってGoogle earth上で炭鉱関連施設の表現（J A F C O Fサイトで閲覧できる）などの成果を上げている。地域の歴史を知ることで、歪みのない自画像を描けるのではないか。

第2報告は、金丸哲也会員の「円高と鉱山・製錬1971年－2011年」です。

71年のニクソンショックの円切り上げから、今日までの非鉄金属業界の円高対策とその結果の業態変容を概観した。脱鉱山の結果、電子、新素材、機械・工具、圧延、環境・リサイクルに業態を変化させた。

77年以降はさらなる円高に見舞われ、国内鉱山の閉鎖が相次いだ。しかし、その後採算のよくない鉱山を閉鎖、新規鉱山の開発、中国の経済成長に伴い銅の消費は90年代1000万トンだったのが2000年には1500万トンに急増した。

円高はその後も断続的に進展し、76円を挟んだ展開となり、鉱山会社は海外進出中心に国内は都市型鉱山などに一層傾斜している。しかし、今後も資源争奪は激しさを増す可能性があるので、国内資源の見直しもあり得るかも。

第3報告は、原田洋一郎会員の「幕府直轄鉱山、石見銀山の存続とその周辺地域」で、同銀山は1650年頃には既に衰退期に入りその後は、1700年代の中頃に少し生産量が増えるがすぐに減少に転じた。

しかし、幕府は石見銀山を支えるために銀を貸付、銀山経営者はこの拝借銀を運用しその結果、周辺経済圏の活性化を生み出し当初、江の川上流部次いで河口付近の経済活動の拡大を促した。

江戸中期以降は、御直山の比重が増大し貸付銀利銀を用いて開発し山師は「寸法家業」を行ったが18世紀中頃は主要坑道、排水溝が計画的に掘削されたが19世紀初期には修復などが増加した。

3 第31回 鉱山の映像を観る会のご案内 内丸山もとこ

【テーマ】 近年のビッグニュースを取り上げます。

前半は、昨年8月に起きたチリの鉱山事故に関連する映像を上映します。後半は、山本作兵衛の炭坑画が今年5月にユネスコの世界記憶遺産に選ばれたことを受けて制作された映像を二つ上映します。今年最後の映像の会です。皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】 2011年12月17日（土） 開場13:00 上映開始14:00 解散17:00

【会場】 國學院大學若木タワー5階509教室（渋谷区東4-10-28）

会場がこれまでと異なりますので、ご注意ください。【会費】 無料

【上映スケジュール】

14:00-15:05

「潜入！チリ銅山 超危険！地下250mの現場！」（「潜入！リアルスコープ」フジテレビ，2011年1月15日放送）約16分．

「NHKスペシャル 奇跡の生還～スクープ チリ鉱山事故の真実」NHK総合テレビ，2010年10月24日放送，約49分．

〔番組説明〕作業員へのNHK単独インタビューとスクープ映像に基づいて、地下で何か起きていたかを明らかにする。今年9月に国際エミー賞を受賞した。 —15:05～15:20 休憩—

15:20～16:30

「日曜美術館 よみがえる地底の記憶～世界記憶遺産・山本作兵衛の炭坑画」NHK Eテレ，2011年9月11日放送，45分．

「クローズアップ現代 炭坑（ヤマ）が“世界の記憶”になった」NHK総合テレビ，2011年7月28日放送，26分．

※解散後、懇親会を予定しておりますので、お時間のある方はご参加ください。鉱山の映像を観る会担当 丸山もとこ

※ご意見ご要望のある方は、〈jmrs.eizonokai@gmail.com〉までご連絡ください。

4 神山英昭氏を偲ぶ 小野崎 敏

神山英昭会員が本年十月一日肺癌で亡くなった。享年七四才だった。氏は「足尾に緑を育てる会」を一九八六年に結成し、煙害で裸地化した

足尾松木地区周辺緑化運動の中心となり、足尾の山に百万本の木を植えよう！とのスローガンで十五年間に亙り会長職を勤め指導力を発揮した。

氏の始動した官民一体での植樹活動は大きく育ち足尾の山々は緑に再生しつつあり、氏の蒔いた種は大きく育っている。

氏の御冥福をお祈りしたい。

5 寄贈資料の紹介

川俣修壽

1. 「金山研究」第10集－2007年度記念講演と公開講座の記録。論文「鉱山坑道形状計測システム－坑道採掘方法に関する検討」久間英樹、皆尾登志美他。

内容は、石見銀山の世界遺産の登録が研究の端緒で、入坑できない坑道の内部を映像化して見学者に提供するのが目的だが、同時に坑道内を非接触で計測し資料分析と併せて当時の採掘方法等を推定している。この手法を湯之奥中山金山と生野銀山で調査した記録。

画像データから坑道断面形状は四角でその大きさも各鉱山で非常に似ていた、規格化された坑道は採掘量を把握しやすくするためで、坑道からの鉱石産出量は少ない。従って、規格化された坑道は本採坑場までの作業坑道と推定できるとしている。今までにない研究方法なので今後の調査に期待したい。

公開講座記録は、石見銀山、佐渡金銀山、平泉等の世界遺産登録運動とその経過の特集で、世界遺産登録を進めたい各地の鉱山町の参考となる。甲斐黄金村・湯之奥金山博物館発行

2. 「松田解子の会」会報第14号。内容は、「『松田解子の作品を味わうつどい』始まる」、「ふるさと秋田で松田文学を学び伝える」、「大仙市で秋田県鉱山サミット」佐藤征子では、東電と三菱の関係に触れている。「松田解子さんの大島」江崎淳等。 以上、川俣修壽

6 事務局からのお知らせ

会員消息 本年度より退会、妙見山麓遺跡調査会。逝去の為神山英昭氏。

入会者、中澤秀雄 中央大学法学部教授、社会学専攻。

鉱山研究会の恒例の忘年会は「映像を観る会」の懇親会の時に行います。